

「自分でやる空間」を提供したい、色々な取組みを通して「おとなの学校」に辿りつく

一般的な介護現場はどうしても「自分は〇〇ができない」と心理的に「落ちる」場である。そうではない場を作りたかった。ある学習療法を知ったことが一つのきっかけで「学ぶ」ということは楽しいということに気付いた。「介護士にやってもらふ空間」と「自分でやる空間」、どちらを提供することが高齢者の方にとっての幸せかを考えた時に、我々は後者を提供したいと考え、「おとなの学校」に辿りついた。

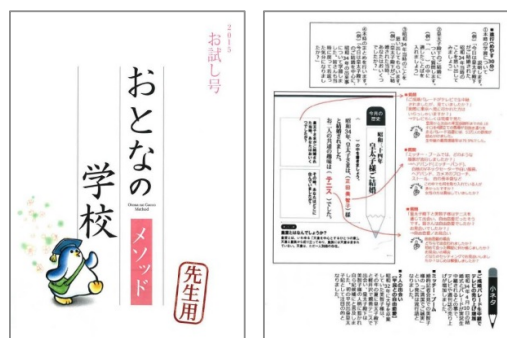
心理的な「空気」や「場の力」を重要視 誰でも授業を楽しめ、また行いやすいよう独自の教科書を制作

● “教室という空間” を再現し五感を刺激

- ・ “教室という空間” により五感を刺激させるため、黒板や時間割、時計などを実際の学校のように設置、チャイムも鳴るなど学校の懐かしさを五感で感じられる作りになっている。
- ☑ 事業所内の様々な場面でも「学校」を再現している。老健で在宅に戻られる際には「卒業式」を行い制服も着用する。デイサービスでは「卒業式」はないが、利用を始められるたびに「入学式」を行っている。期末には「甲乙丙」の通知表も作成し手渡しをしている。
- ☑ ただし、「学校」の形はとっているが、利用者には必ず「～様」と呼ぶなど、サービス業としてのお客様に対する対応は徹底している。

● 「おとなの学校」独自の教科書を制作

- ☑ 「おとなの学校」で使われる教科書を、編集のプロと介護のプロと協業で毎月制作している。
- ☑ 教科書には昔のものも含めて季節感も織り込みながら、写真もたくさん入れている。また、授業の間にはさむ「小ネタ＝雑学や豆知識」を載せている。
- ・ 「先生用」として教則本（ティーチングノート）を提供している。教科書を使ってどういう進行をすればよいかを記しており、誰でも授業が行いやすいようになっている。



「おとなの学校」メソッドをより広域に提供 回想法を活用した“ライフレコード”サービスの開発と提供

● 病院や海外への展開

- ☑ 介護施設以外に病院にも展開していきたいと考えている。回復期リハ病棟などで導入すれば、運動能力とともに認知機能も上げていくことができると期待される。
- ☑ 実際に海外からの視察もあることから、知財の問題を解決しつつ海外に展開したいと考えている。

● 高齢者のこれまでの人生を振り返る“ライフレコード”を家族が制作できるツールの開発と提供

- ☑ 回想法を活用し、結婚式のビデオ・写真スライドのような形で高齢者の生い立ちから最近までを写真とコメント入りで振り返る“ライフレコード”を「おとなの学校」で制作している。
- ・ 今後は、製作をスタッフではなくご家族が制作できるようなツールを開発し、提供するサービスを予定している。

事業者からの、ご利用される方やケアマネージャー・自治体の方へのメッセージ

株式会社おとなの学校
代表取締役 大浦 敬子

おとなの学校にあるもの、それは「未来」。人は明日があるから生きられるのではないのでしょうか。最期の瞬間まで、未来を信じて生きられる場所を創る、それが私たちの願いです。

高齢者の「自信、意欲、誇り」を引き出し認知症を予防・改善

読み書き・計算による認知症予防、改善プログラム

株式会社公文教育研究会 学習療法センター

ポイント

- 「くもん学習療法」：認知症高齢者の脳機能の維持・改善をはかる
- 「脳の健康教室」：元気な高齢者が認知症予防として取り組む

【ご利用者からみて】

1. 「読み書き計算、コミュニケーション」を行うことで脳の活性化を促し、表情・意欲・身辺自立・QOLを向上させ、認知症予防と改善に寄与
2. 学習療法は「起点」「スイッチ」であり、高齢者の「自信、意欲、誇り」を引き出すことが学習療法の効果

【事業として】

1. 教材を介してスタッフと利用者のコミュニケーションが深まるため、スタッフの人材育成と、介護力を大きく引き上げる
2. 導入施設側の体制など、導入に一定のハードルを設けることにより、質を確保
3. 実施するのは介護施設、自治体やNPO。当社は教材提供や人材育成という裏方に徹する

商品・サービス概要

高齢の方々に「自信」「意欲」「誇り」を持っていただく
施設全体の介護力を大きく引き上げる

<くもん学習療法>

【商品・サービス】

●ご利用者から見て

- ・「読み書き計算、コミュニケーション」を行うことで認知症高齢者の脳機能の維持・改善をはかる
- ・学習療法を受けることで認知症の方の「自信、意欲、誇り」を引き出す。学習療法が「起点」「スイッチ」となり、リハビリ効果が高まるという評価も得ている

●導入施設から見て

- ・教材を介してスタッフと利用者のコミュニケーションが深まる。利用者の人生のバックグラウンドをスタッフが知ることが可能となり、介護スタッフの人材育成に寄与
- ・日々の学習療法を通じて、ちょっとした字の乱れから体調の変化を感じ取ることもできる。一般的な介護サービスでは気付かない小さな変化が見え、この「気付き」が介護力向上の重要なポイントとなる

●導入実績

- ・国内約1,600施設で導入され、約12,000名が学習中。アメリカでも10州24施設で導入されている（2016年1月現在）

【価格】

- 導入施設から一人あたり月額2,000円（税抜）を納入。※導入時には別途研修費用がかかります。

<脳の健康教室>

【商品・サービス】

●ご利用者から見て

- ・「読み書き計算、コミュニケーション」を行うことで認知症予防を促し、仲間づくり、社会参加へつなげる

●実施実績

- ・約240の市区町村で、約470の教室が開講されている（2015年度）
- ☑教室では地域のボランティアである教室サポーターが受講者対応を行う。活動を通じて地域のコミュニティを形成。

【価格】

- 当社には一人あたり月額2,000円（税抜）を納入。※導入時には別途研修費用がかかります。

<宮城県仙台市における
脳の健康教室の様子>



主な利用者とのQOL向上のポイント

健常な高齢者の認知症予防から認知症高齢者の脳機能維持・改善

- 利用者のプロフィール：くもん学習療法の利用者は認知症高齢者であり、実施主体は介護施設。脳の健康教室の利用者は主に健常な高齢者であるが要支援者も含む。実施主体は自治体やNPO団体。
- QOL改善・向上のポイント（対応するニーズ）：認知症の予防～脳機能の維持・改善。高齢の方々の「自信」「意欲」「誇り」を引き出す。

東北大学の川島隆太教授の研究テーマである「読み書き計算が脳の活性化につながる」を実証するため、2001年9月、独立行政法人科学技術振興機構の助成を受けた産官学の共同プロジェクトとして実践研究をスタート。

実践研究におけるFAB・MMSEの結果から、読み書き計算により認知機能が向上することが立証されたため、2004年7月、学習療法センターを立ち上げて事業として進めていくことになり現在に至っている。

高齢者の「自信」「意欲」「誇り」を持っていただく仕掛 導入施設側にハードルを設け質を確保

● 学習療法や脳の健康教室を通じて、高齢者の「自信」「意欲」「誇り」を持っていただくことを目指す

教材づくりには相当の経営資源を投入しており、高齢者の方々の長期記憶をよみがえらせるような古い日常用品等を読み書き教材の題材に入れたりしている。

こうして高齢者の方に「自信」「意欲」「誇り」を持ってもらい、スタッフの方々にも「そうか、介護とは3大介護だけではないんだ」と思ってもらえることを目指している。

● 認知機能のレベルに合わせた教材を用意

教材は利用者の状態に合わせたものを提供できるようにしている。状態の異なる利用者と同じ教材を使用することは「自信」「意欲」「誇り」という観点で逆効果になることがある。

脳の健康教室についても、教材を2種類用意している。健康教室に来られる方の中には、元気といっても軽度認知障害（MCI）の疑いのある方もいるため。

● 学習療法の導入には施設側に一定のハードルを設けることによって質を確保

学習療法や脳の健康教室はいわゆる「脳トレ」とは異なり、学習の進め方によって効果が全く異なってくる。

そのため、導入してもらおう施設にはあえてハードルを上げることで、「質」を保っている。具体的には、高齢者の方2人に対してスタッフ1人の配置や、学習時間は1日30分をできれば週5日、少なくとも週3回以上お願いしている。



学習療法教材



脳の健康教室教材

利用者の状態を把握し、一人ひとりがスラスラ学習できる教材を提供していく。

学習療法、脳の健康教室のさらなる普及と、ソーシャルインパクトボンドへの取り組み

● 学習療法、脳の健康教室のさらなる普及

かつて「メタボ」の知名度は低かったが今では誰もが意識するようになった。同じように、学習療法・脳の健康教室を拡げていくことで、若い方も含めて、学習療法、脳の健康教室を知っている状況を目指す。認知症についての認識を一般の方々にも高めていただくことが、認知症に関わる諸課題の解決につながっていくと考えている。

また、脳の健康教室についても、体操とのコラボなど今後の総合事業を含めた地域のコミュニティ・カフェ等のコンテンツとして利用してもらえるよう働きかけていく。

● 学習療法に携わる方に対して、新たな資格認定

2016年4月からは学習療法を実践される方に「学習療法実践士」「学習療法マスター」という資格を認定する予定。日常的に学習支援を行う実践士のうち、施設責任者の推薦を受けた方が当社の研修を受けると「マスター」に認定される。

● ソーシャルインパクトボンドへの取り組み

介護予防分野の初の試みとして、ソーシャルインパクトボンドの調査事業が経済産業省に採択され、進めているところである。学習療法や脳の健康教室が、ご高齢の方々の生活やケア全体にどのように影響しているか、社会的な便益、経済効果を生むのかを研究していく。

事業者からの、ご利用される方やケアマネージャー・自治体の方へのメッセージ 学習療法センター代表 大竹洋司

科学技術振興機構（JST）の補助を受け、2001年9月から産官学で実証研究を実施した結果、認知症高齢者、軽度認知障害（MCI）の方の脳機能の維持・改善、ならびに元気高齢者の認知症予防にも極めて高い効果があることが明らかとなり、学習療法・脳の健康教室は誕生しました。また、経済産業省の委託を受けたソーシャルインパクトボンド調査事業によって、高齢者の認知機能の維持・改善はもとより、公的なコスト（介護費・医療費）への貢献や高齢者介護施設の経営面においても大きく貢献出来る可能性が明らかになりつつあります。

学習療法センターは、実践者である導入施設、自治体の皆様とともに、学習療法・脳の健康教室の実践内容を、更に進化させていきたいと考えております。

ホスピタリティと専門能力を身に付けたドライバーによる外出支援 サポートタクシー（ケアタクシー）

日本交通株式会社

ポイント

【ご利用者からみて】

買い物、観光、お墓参りなど、ご高齢の方・障害のある方のお出かけをタクシードライバーが付き添い、サポートしてくれる

【事業として】

1. 介護・応急救護などの専門スキルを身に付けたエキスパートドライバーが対応
2. 時間制の料金体系やドライバー主体の運営でコスト問題を解決

- 「個人顧客から選ばれる」ことを目指して開始したサービス。「サポートタクシー＝高齢者の外出支援」は「観光」「キッズ」と並ぶ分野の一つ
- 独自の工夫・取組みで、コスト問題を解決し、質の高いサービスを提供

サービスの
質の確保

- 優良ドライバーから希望者を募り、教育を徹底することで質の高いサービスを提供
- ドライバー同士でノウハウやサポートの留意点等も共有

事業採算の
確保

- 独自開発のアプリでドライバーがお客様から直接予約注文を受け、本部コストを省く
- 時間制の料金システムにすることで、短距離が多い送迎ニーズに対応

- ドライバーのモチベーション向上や就職希望者の増加といった副次効果も生んでおり、今後もエキスパートドライバーの数を増やしていく予定

商品・サービス概要

専門のドライバーによる時間制の送迎・付添い等の外出支援サービス

【商品・サービス】

● 専門のドライバーによる病院や買い物の送迎や付き添い

日本交通グループ約7,000名の中から、選抜された乗務員「エキスパートドライバー」が「サポート」「観光」「キッズ」の各分野において付加価値の高い時間制のサービスを提供している。

「サポートタクシー」は高齢の方を対象としたサービス。2015年11月時点で33名が対応している。

使用シーンは、病院への通院、買い物、お墓参り、家族の結婚式の出席といった場合の送迎と付き添いなどである。

● 他社との連携により、百貨店や空港にも付き添い

三越との提携により、日本橋三越本店内の買い物をサポートするサービスもある。三越のパートナー研修にドライバーが参加したり、当社用の研修を三越に実施してもらっている。

JALやANAといった航空会社とも提携しており、ご自宅から空港の搭乗口までの送迎も行っている。

【価格例】

● 時間制の料金体系（2015年11月時点）

最初の1時間 5,270円（運賃4,650円、サポートチャージ620円）

以降30分後とに2,420円（運賃:2,110円、サポートチャージ:310円）



主な利用者とQOL向上のポイント

ご高齢の方に対する、送迎を超えたお出かけの精神的・身体的サポート

- 利用者のプロフィール：年代では70代の方が多い。要介護認定は受けていないが外出に不安があったり、支障があるといった方や、要介護2程度までなら介護が必要な方にも対応している。
- QOL改善・向上のポイント（対応するニーズ）：定期的な利用の方が多い。買い物の後の荷物の仕訳のお手伝いや、お墓参りの送迎時のお墓の掃除など、単なる送迎ではなく、「お出かけに伴う精神的・身体的な何かしらのサポート」を行うサービスといえる。